

甲斐市立 竜王東小学校 自己評価書

令和 7 年 1 月 24 日 (金) 作成

校長 丹沢 貴浩

記述者 職名 教頭 内藤 成子

学校教育目標

人間性豊かで主体性に富んだ児童の育成

- (1) よく考え、進んで学ぶ子ども (自主性、創造性)
- (2) 決まりを守り、思いやりのある、心豊かな子ども (社会性、道徳性、情操生)
- (3) じょうぶでたくましく、最後までやりぬく子ども (健康な心身、強い意志)

学校経営方針

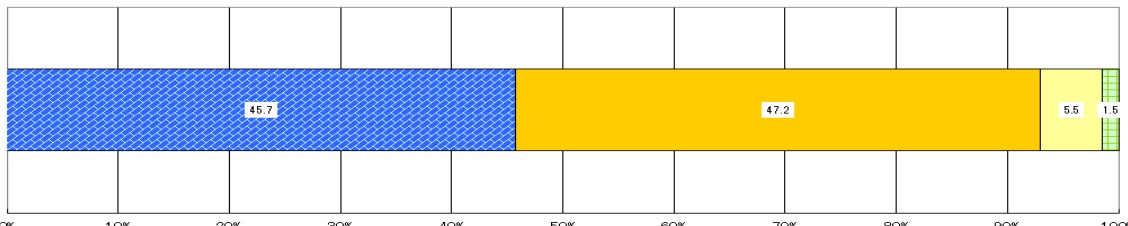
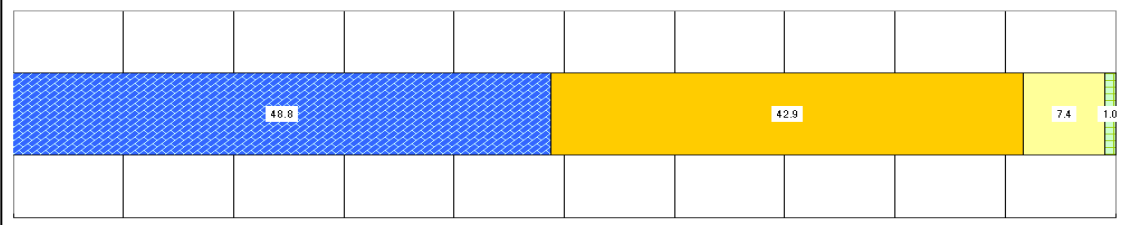
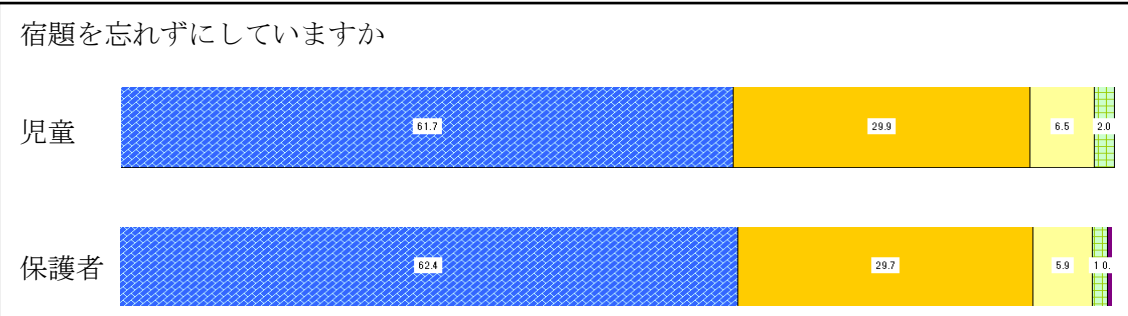
- (1) 活力に満ちた「特色のある学校づくり」を目指し、知・徳・体の調和を重視し、児童や地域の実態を的確に把握した「生きる力」を育む適切な教育課程により、多様な教育活動を通して学校教育目標の具現化に努める。また、その達成状況を把握、整理し、取組の適切さを検証することにより教育活動を組織的、継続的に改善する。
- (2) 学習指導要領の主旨や内容に基づいた適切な教育課程を編成し、「主体的で対話的な深い学び」の実現を目指し授業改善及び評価に取り組む。オープンスクールとしての施設、設備及び学校ボランティアをはじめとする貴重な人的資源も活用し、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、確かな学力をはぐくむ指導と評価に努める。
- (3) 全教育課程を通して、教師と児童との信頼関係及び児童相互のよりよい人間関係を育てる学級集団づくりに取り組む。児童が所属感、自己有用感を持つことができるような活動に取り組み、一人一人のよさや可能性を活かすように努める。
- (4) 自ら運動を実践する態度を育成し、体力の向上を図り食育並びに心身の健康の保持増進及び安全に関する指導を関連させながら、望ましい生活習慣の育成に努める。
- (5) 保護者、地域社会との連携を深め学校内外を通じた児童の安全、安心を基盤とし、家庭や地域に開かれた信頼される学校づくりの推進に努める。

1 全体評価

- 学校経営方針に基づき、教育目標の実現に向けて一人一人の教職員がそれぞれの職務を遂行してきたことにより、教育活動全般にわたって、児童と保護者から肯定的な評価を得られた。本校の学校評価に関わる総合的な評価は概ね良好な水準にあると考えられる。
- 学校教育目標が具体的な行動目標として示され、それぞれの教職員が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を行ってきた。職員同士が連携し、協働体制を意識し行ったことで、校務分掌が有効に機能し、全教職員が主体的に学校運営に参画することができた。
- 校内研究は、研究主題を『主体的に学ぶ子どもの育成～学習者主体の授業づくりを通して～』として全教職員で取り組んできた。昨年度の研究では、ICTを活用した協働的な学習場面を設定する授業づくりを通して主体的・対話的に学ぶ子どもの育成をめざし、教師と児童がクラウド環境において相互に参照し、共に創造する学習方法について探ってきた。そこで、今年度はその経験をもとに、学習者一人一人が自分に合った学び方を見つけ、主体的に学習に取り組むことをめざす「学習者主体」の授業づくりについて研究を進めてきた。個別の学習プランや多様な教材や複数の学習スタイルを用いることで、児童が自分のペースで学べる環境を創り出すことをめざしてきた。
- 全教職員が児童一人一人と積極的にコミュニケーションを取り、教職員間での情報共有が適切に行われ、その結果、子供達が楽しい学校生活を送っている。

○地域による下校の見守りやP T Aにおける朝の旗振りの安全指導にこれまでと変わらぬ協力をいただき、学校教育活動を推進することができた。 ○本校の強みであるオープンスペースや広い校庭などの施設・設備を活かし、活気のある教育活動を進めることができています。	
2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策） ＜注意＞肯定的評価 …… A「とてもそう思う」、B「そう思う」を合わせた割合を百分率によって表している。 評価の平均値…… A「とてもそう思う」=10、B「そう思う」=7.5、C「ややそう思わない」=5、D「そう思わない」=2.5 としてアンケートデータの平均値を表している。 ※もとのアンケートでは4点満点で回答してもらっているが、よりわかりやすくするため、素点に2.5をかけ10点満点で換算して出している。	
I 学校教育目標に関して・学校経営について	
達成状況	・4つの評価項目において、肯定的評価は100%であり、5項目全体の評価の平均値も8.6ポイントで、良好な評価である。学校教育目標を達成するための経営方針が具体的に示され、教職員一人一人が学校教育目標の具現化に向け、教育実践を計画的に行っていると考えられる。 ・「特別支援教育の体制」においては、評価の平均値が8.9ポイントと良好な評価である。支援が必要な子どもに対して、校内で共通理解のもと、関係職員でいいねいな支援を進めてきた。今後も特別支援学級では、交流学級と連絡を取り合い、学習計画の調整を行うようにしていく。
改善策	・来年度も継続して、校長の学校経営方針をいいねいに説明し、全教職員に十分に理解させるとともに、校長のリーダーシップのもと、教育活動を計画的に推進していけるようにしたい。 ・PDCA サイクルの意識は高い。日々の教育活動から大きな行事に至るまで、計画から実施、ふり返り、改善へと一連の流れを一つ一ついいねいに追いつきながら、さらによりよい教育活動へつなげていけるようにしていきたい。
II 学校運営について（保護者用アンケート等も含めて）	
達成状況	・8項目中の4つ、「危機管理マニュアルの理解」「個人情報保護・情報セキュリティ」「協働体制」「今日的課題の把握」においては、肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.6ポイントで、良好な評価である。 ・この結果の中でも、特に「協働体制」については、評価の平均値が9.0ポイントと高い値を示しており、教職員同士が協働して教育活動にあたっていることができていていると考えられる。教職員が情報を共有することで、大きな行事等でも全体の動きを見ながら進めることができた。また、生徒指導や保護者対応においても一人で抱え込まずに必ず複数体制で対応してきた成果が出ていると考えられる。 ・「校内研究・研修」では、評価の平均値が8.4ポイントと良好である。昨年度、甲斐市の指定を受けて研究を進め、各教科等における深い学びを実現するために、一人一台端末を中心に効果的なICTの利活用を取り入れた授業実践を行った。教職員の研究への意識も高いので、これまでの積み重ねを生かし、今後も継続して研究・研修を積んでいきたい。 ・ここ数年、「働き方改革」に対する意識を高め、業務の見直し・改善を行い、成果をあげてきている。働き方を見直すアイデアを出し合いながら、継続してよりよい働き方を探っ

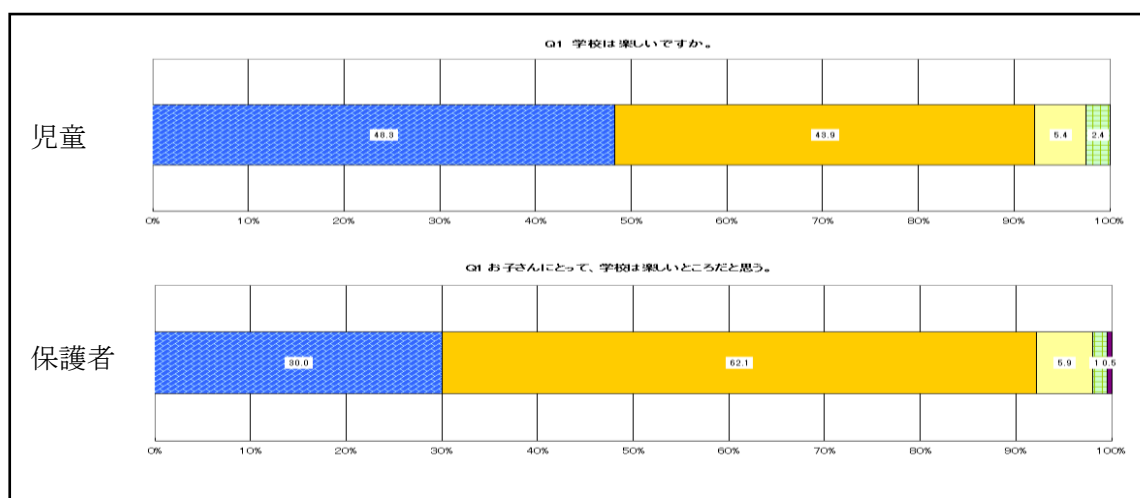
	ている。					
	・昨年度の課題であった「危機管理マニュアルの理解」と「個人情報保護」については、あらためて全教職員で確認をし、意識を高めることができた。 ・「校務支援システム」においては、評価の平均値が 8.0 となっている。昨年度の 7.8 より上昇した。成績処理の方法が観点別評価に変わり、そのやり方に慣れることが課題であったが、新たな成績処理の方法に慣れてきた結果だと考えられる。 ・「働き方改革」においては、取組や意識が大きな変化を遂げてきている。超過勤務は減ってきてはいるものの、指導内容の増大、学級数の減少による担任の負担増など課題は多い。具体的な方策を探ってきてはいるが、まだまだ十分とは言えない。今後は、昨年度に引き続き、教員が行うべき業務とそうでない業務をしっかりと分け、本来教員が行うべきである子どものために必要な教育活動を効率的に、円滑に行えるようにしていく必要がある。 ・「協働体制」という点を重視し、教職員一人一人が孤立せず、「働きやすい職場である」という実感をもてるような職場づくりをさらに心がけていきたい。					
Ⅲ 学習指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）						
達成状況	・7項目中5つ「基礎、基本の定着」「指導と評価の一体化」「ICTを活用した授業」「協働的な学び」「家庭学習」について、肯定的評価が 100%であり、この項の全体の評価の平均値も 8.6 ポイントで良好な評価である。 ・「意欲の喚起」については、評価の平均値は 8.4 ポイントとなっている。「意欲を喚起」するためには、しっかりと教材研究と準備が必要になる。普段から、多くの教職員がていねいにしっかりと準備を行って授業に取り組んでいる。児童の回答でも肯定的評価は 97.5%となっており、日々の教職員の努力の成果が出ていると考えられる。保護者の回答では 83.6%となっており、授業参観やおたよりでの伝達が必要だと考える。					
	先生はよく勉強を教えてくれる 学校は熱心に授業に取り組んでいる（C－5、TⅢ－①、P－8） <table><tr><td>児童</td><td> 71.9 25.6 </td></tr><tr><td>教職員</td><td> 44.4 50.0 </td></tr><tr><td>保護者</td><td> 24.4 59.2 1 </td></tr></table> ・「基礎・基本の定着」については、評価の平均値が 8.7 ポイントとなっている。基礎・基本を大切に、繰り返し取り組ませることでしっかりと定着させようという教職員の意識は高い。また、理解に時間を要する子どもたちには、支援員と協力して個別に対応しながら学習を進めている。児童アンケートの「国語の授業の内容はわかりますか」や「算数の授業の内容はわかりますか」では、肯定的評価が 93.0%と 91.6%となっており、授業の内容がわかる子どもたちが多いことがわかる。このことから、教職員が児童一人一人を取り残すことのないように努力していることがわかる。	児童	71.9 25.6	教職員	44.4 50.0	保護者
児童	71.9 25.6					
教職員	44.4 50.0					
保護者	24.4 59.2 1					

	Q6 国語の授業の内容はわかりますか。  <table><tr><th>Response Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>Yes (Blue)</td><td>45.7%</td></tr><tr><td>No (Yellow)</td><td>47.2%</td></tr><tr><td>Don't know (Light Green)</td><td>5.5%</td></tr><tr><td>Other (Dark Green)</td><td>1.5%</td></tr></table> Q7 算数の授業の内容はわかりますか。  <table><tr><th>Response Category</th><th>Percentage</th></tr><tr><td>Yes (Blue)</td><td>48.8%</td></tr><tr><td>No (Yellow)</td><td>42.9%</td></tr><tr><td>Don't know (Light Green)</td><td>7.4%</td></tr><tr><td>Other (Dark Green)</td><td>1.0%</td></tr></table> ・「協働的な学び」については肯定的評価が 100%であり、評価の平均値は 8.7 ポイントとなっている。一人一台端末を活用して、全児童が他者の考えを共有し、小グループまたは学級全体で様々な考えについて比較・検討することができている。その活動を通して、異なる意見を組み合わせたり、新しい考えへと発展させたりする「協働的な学び」につながったと考えられる。 ・「宿題や家庭学習」では、教職員の評価の平均値が 8.7 となっている。授業のふり返りや学習内容の定着に向けた内容を宿題に出したり、自主的に行う学習に取り組ませたりしている。児童や保護者の「宿題や家庭学習をしていますか」についての回答でも肯定的評価が 91.5%と 92.1%となっており、家庭学習の重要性を理解し、協力してくれている保護者が多いことがわかる。今後も、家庭と連携しながら取り組んでいきたい。 宿題を忘れずにしていますか  <table><tr><th>Category</th><th>Yes (Blue)</th><th>No (Yellow)</th><th>Don't know (Light Green)</th><th>Other (Dark Green)</th></tr><tr><td>児童</td><td>61.7%</td><td>29.9%</td><td>6.5%</td><td>2.0%</td></tr><tr><td>保護者</td><td>62.4%</td><td>29.7%</td><td>5.9%</td><td>1.0%</td></tr></table>	Response Category	Percentage	Yes (Blue)	45.7%	No (Yellow)	47.2%	Don't know (Light Green)	5.5%	Other (Dark Green)	1.5%	Response Category	Percentage	Yes (Blue)	48.8%	No (Yellow)	42.9%	Don't know (Light Green)	7.4%	Other (Dark Green)	1.0%	Category	Yes (Blue)	No (Yellow)	Don't know (Light Green)	Other (Dark Green)	児童	61.7%	29.9%	6.5%	2.0%	保護者	62.4%	29.7%	5.9%	1.0%
Response Category	Percentage																																			
Yes (Blue)	45.7%																																			
No (Yellow)	47.2%																																			
Don't know (Light Green)	5.5%																																			
Other (Dark Green)	1.5%																																			
Response Category	Percentage																																			
Yes (Blue)	48.8%																																			
No (Yellow)	42.9%																																			
Don't know (Light Green)	7.4%																																			
Other (Dark Green)	1.0%																																			
Category	Yes (Blue)	No (Yellow)	Don't know (Light Green)	Other (Dark Green)																																
児童	61.7%	29.9%	6.5%	2.0%																																
保護者	62.4%	29.7%	5.9%	1.0%																																
改善策	・「基礎・基本の定着」において、「算数の授業の内容がわかりますか」の項目については、8%の児童が「あまりわからない」「わからない」につけている。思うように学習支援が行き届かなかったところがあるかもしれない。今後は、担任と支援員または学力向上スタッフの間で密に情報交換をし、より手厚い支援を入れると同時に、算数に支援に入る時間を増やしていきたい。 ・「指導と評価の一体化」については、B評価が多く、平均値は 8.5 ポイントとなっている。普段の取組を見ていると、多くの学年で週あたりの授業案（予定表）を作っており、指導についての意識は高いことがうかがえる。児童のふり返りを活かした学習指導の改善を行うということが十分ではないのかもしれない。今後は、各教科とも単元の評価規準をより意識しながら計画的に学習を進めていくことを大切にしたい。 ・自主学習については、児童への声かけとともに、県から出されている「家庭学習のすすめ」を再度家庭に配付し、自主学習について啓蒙していきたい。																																			

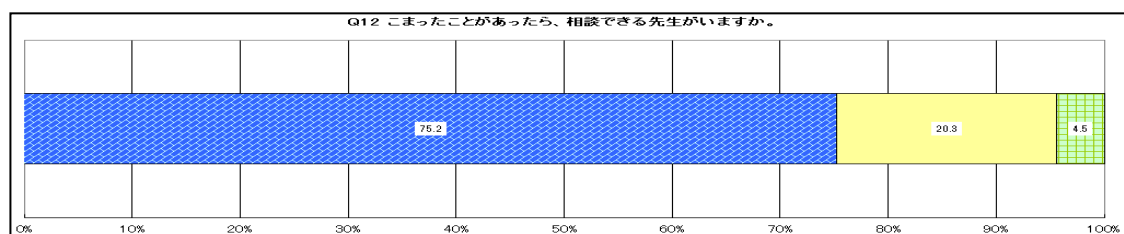
IV 生徒指導について（児童生徒用及び保護者用アンケート等も含めて）

達成状況

- ・6項目中の3つ、「児童理解のためのコミュニケーション」「いじめ・不登校等の早期発見・早期対応」「全教職員の共通理解」について、肯定的評価が100%であり、この項の全体の評価の平均値も8.8ポイントで、良好である。
- ・「民主的で規律ある」の評価の平均値は8.9ポイント、「規範意識」の評価の平均値は8.8ポイントであった。民主的で規律があり、規範意識が高い学級づくりをしていることは、安心して過ごせる環境が整っていると言える。安心して過ごせることは「学校が楽しい」にもつながる。児童アンケートの「学校は楽しいですか」や保護者アンケートの「お子さんにとって、学校は楽しいところだと思うか」の項目を見てみると、それぞれ肯定的評価は92.2%と92.1%と高い数値が出ていることから、「民主的で規律ある」「規範意識」については、教職員が高い意識で取り組んできた成果が出ていると考えられる。



- ・「児童理解のためのコミュニケーション」においては、評価の平均値が9.2ポイントと高く、日頃から意識して児童とコミュニケーションをとるようにしていることがわかる。しかし、児童アンケートの「困ったことがあったら相談できる先生がいますか」という項目は、肯定的評価（「いる」と回答 下グラフ青色部分）が75.0%となっており、昨年度より下がっている。この結果を真摯に受け止め、児童が安心して学校生活を送ることができるよう、関係づくりや環境づくりに努めていきたい。
- ・「いじめ・不登校等の早期発見・早期対応」の評価の平均値は8.9ポイントであった。教職員は日頃から児童とのコミュニケーションを積極的にとるようにしており、児童一人一人に変わったことがないか等、小さな変化も見逃さないようにしている。また、学期に1回の学校生活アンケートでも情報を集め、いじめの早期発見・早期対応に努めている。



- ・「全教職員の共通理解」の評価の平均値は8.8ポイントとなっている。担任一人が抱え込まず、関わりのある教職員で情報交換を密にしながら指導にあたることができていると考えられる。
- ・「キャリア教育」については、肯定的評価が8.0ポイントとなっている。特別活動の学級

改善策

活動及びホームルーム活動を要とし、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したりふり返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるようにするためにキャリア・パスポートを活用している。教職員は活用の目的は理解しているが、十分に活用できていないと考えられる。今後は、児童自身が培ってきたキャリアをふり返る手立てとしてキャリア・パスポートを活用し、発達段階に応じた指導をしていく必要がある。

V 地域との連携について

達成状況

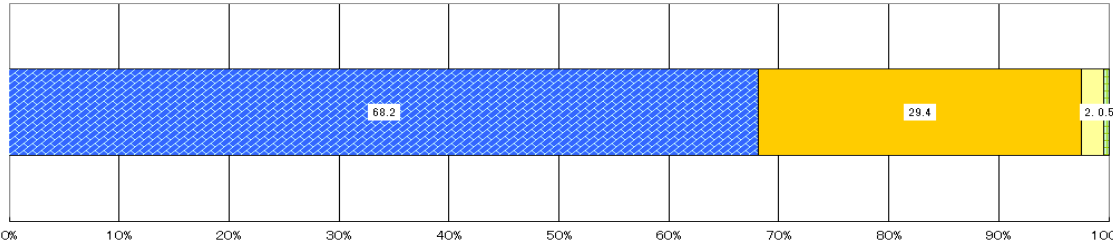
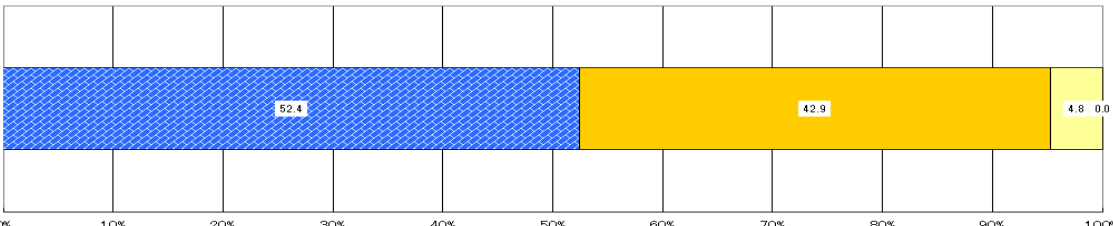
・ 6 項目のうち「安全確保」については肯定的評価が 100%であった。全体評価の平均値は 8.4 ポイントであり、良好な評価となっている。

・ 「情報収集を行っている」については、日頃から保護者と連絡を密にとったり行事後にアンケートを取らせていただいたり、 P T A 活動においても意見を言える場を設けたりして、保護者からのご意見や要望を聞くようにしており、いただいた意見に真摯に対応する教職員の意識が高いことがわかる。保護者アンケートの「学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う」において、肯定的評価が 69.5%となっており、昨年度より下がっている。理解を得られるよう、工夫をする必要がある。

Q5 学校は、保護者・地域住民からの声に耳を傾けていると思う。

</

改善策	・学校の教育活動を地域に広く知ってもらうために、今後は地域の方に積極的に学校へ足を運んでもらったり情報を発信したりする中で地域との連携を強め、地域の教育力を学校の中に活かしていきたい。 ・今年度からコミュニティ・スクール（学校運営協議会）が設置された。「地域とともにある学校」「地域に開かれた特色ある学校」への転換を図るための取組がこれまで以上に必要となってくる。学校と地域が一体となって協力していきたいと考えている。						
VI 学校の特色に関して							
達成状況	・「たてわり活動」については、評価の平均値が 8.5 ポイントとなっており、高学年の児童がリーダーシップを発揮できるような取組体制をつくとともに、低学年の児童もスムーズに活動に参加できる体制をつくる指導を行った成果であると考えられる。 ・「のびっこタイム」については、しっかりと計画を立てて進めることができている。この時間は国語の 1 単位時間の 45 分を 3 等分に分割し、1 モジュール時間を 15 分で行っている。漢字の学習や言葉の学習、音読、言語活動など、時間的制限に適した学習を計画的に行っている。本来の 1 単位時間と 1 モジュール時間を計画段階でうまく組み合わせることで、効果的な指導ができるようになってきている。						
改善策	・「よくわかる竜王東小」を作成し、教職員、児童、保護者で竜王東小学校のきまりを確認できるようになっている。「児童の規律（ノーチャイム）」については、肯定的評価が 100% となっており、児童の自主性を育み、自分で考えて行動する力をつけられるよう指導を行っていることがわかる。児童アンケートにおいても「きまりや約束ごとを守る」という項目で肯定的評価が 95.1% となっており、意識が高いことがわかる。今後も、共通理解のもとに、効果的な指導をしていきたい。 Q13 学校のきまりや約束ごとを守っていますか。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>はい</td> <td>44.5%</td> </tr> <tr> <td>いいえ</td> <td>50.5%</td> </tr> </tbody> </table> ・V 地域との連携の評価項目と合わせ、地域人材の活用や学校ボランティアの活用について工夫をしていきたい。	回答	割合	はい	44.5%	いいえ	50.5%
回答	割合						
はい	44.5%						
いいえ	50.5%						
VII 創甲斐教育について							
達成状況	・昨年度同様に肯定的評価が 100% となっているのは「基礎的な言語の習得」のみとなったが、この項全体の評価の平均値は 8.9 ポイントとなっており、良好な評価である。 ・「対話力」と「体力向上や健康指導」については、両項目とも肯定的評価が 95.3% となっており、児童につけたい力を明確にし、意識を高くもって指導していることがわかる。 ・友だちの意見をしっかりと聞き、自分の考えとすりあわせることで対話が成り立つ。児童アンケートにおいても、友だちの意見をしっかりと聞くことに対する肯定的評価は 97.6% となっており、指導の成果が出ていると考えられる。より高められるよう、指導を継続していきたい。						

	Q27 授業中、友達の意見をしっかり聞いていますか。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Blue (Yes)</td> <td>68.2</td> </tr> <tr> <td>Yellow (Somewhat)</td> <td>29.4</td> </tr> <tr> <td>Green (No)</td> <td>2.05</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	Blue (Yes)	68.2	Yellow (Somewhat)	29.4	Green (No)	2.05
Category	Percentage								
Blue (Yes)	68.2								
Yellow (Somewhat)	29.4								
Green (No)	2.05								
改善策	・児童同士が対話できるような授業の流れを仕組んだり、ICT を効果的に使用したりすることで「対話力」を高めていきたい。今後も教職員同士で情報交換しながら、研究・研修を積み重ねていきたい。 VI-2 あなたは、児童同士の対話力を高める指導を行っている。  <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>Percentage</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Blue (Yes)</td> <td>52.4</td> </tr> <tr> <td>Yellow (Somewhat)</td> <td>42.9</td> </tr> <tr> <td>Green (No)</td> <td>4.8</td> </tr> </tbody> </table>	Category	Percentage	Blue (Yes)	52.4	Yellow (Somewhat)	42.9	Green (No)	4.8
Category	Percentage								
Blue (Yes)	52.4								
Yellow (Somewhat)	42.9								
Green (No)	4.8								
3 まとめ <成 果> ・教職員の自己評価では、39 の評価項目の肯定的評価の平均が 8.6 ポイントとなっており、高い意識を持って職務に当たっていることがわかる。本校の教職員が市教育委員会の示す学校評価の各項目を、単なる評価項目としてではなく、日常の職務を遂行するための行動指針（具体的な目標）として意識し、日々の業務に使命感と責任を持って取り組んでいると考えられる。 ・児童アンケート、保護者アンケートの結果を過去 2 年間の評価及び市全体の評価結果と比較すると、いずれも同程度の評価であった。本校が掲げる「安心・安全・安定」の学校運営がなされており、そのことが児童や保護者に評価されていると考えられる。 ・今年度も「働き方改革」を推進する中、わかりやすい学校経営を校長が打ち出し、それを一つ一つ具現化することで、教職員が教育活動に集中できたと考えられる。一人一人が自分の分掌をしっかりと意識し、責任をもって取り組むことができ、協働意識も上がったと言える。 <課 題> ・教職員の自己評価において評価が低かった項目については、結果を真摯に受け止め、改善に努めていく。 ①「何を学ぶか」だけではなく、「何ができるようになるか」を明確化し、「どのように学ぶか」の重要性を強調し、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を推進する。 ②コミュニティ・スクールを含む、地域や家庭との連携・協働を促進する。									